

SLA通信

〒460-0024 名古屋市中区正木1-2-8

(財)シニアルネサンス財団内

TEL 052 332 7883

第24号

魅力的なSLA活動を求めて

中部シニアライフアドバイザー協会

会長 今泉治子

中部SLA協会も8年目の活動に入りました。高齢化社会の中で、SLA活動のニーズは無限ですが、協会内外の活動は、緩やかな広がりにとどまっています。

SLA活動は、これでいいのでしょうか。せっかくだいい仲間に出会えたのだから、なにか魅力的な活動がしたい。そう願っているSLAも少なくないはずです。

今年度の協会の活動は、今一度原点に戻り、次の3項目をポイントに、SLA活動の推進を図ります。会員の皆様には、協会運営へのご理解と積極的なご参加をお願いいたします。

① 情報交換とネットワーク作り

SLA活動に参加する機会が少ない。という声をよく耳にします。それと同時に、私たちは、この活動が、あらかじめ用意されたプログラムから、参加したいメニューをチョイスするというシステムではないことも理解しています。

私たちは、自分は何をしたいのか、何が出来るのかを問いかけ、それを実行する場を模索しなければなりません。そのためには、会員間の情報交換を密にして、共に活動する仲間作りが急がれます。

また休止中の地域部会の再出発も視野に入れ、それらの延長線上で、SLAの活動の場を模索します。

② SLAのPR活動

SLA活動は本来、外に向かって発信すべき活動ですが、活動を展開する上では、その知名度が要求されます。社会的認知度が高まったシニアルネサンス財団が養成をしたSLAは全国で1800名を上回りましたが、中部地区におけるSLA、あるいはその活動への認知度は一部の範囲に限られています。

現在協会のおもなPR活動は、年2回の特設電話相談を開設する際のマスコミへの働きかけですが、これでいいのか検討の時期にきています。また、私たち会員一人一人がSLAを世間に紹介するよう心がける。そういう地道なPR活動も大切に思います。是非ご協力下さい。

③ 質の高いSLA活動を目指して

SLA活動とは、健康的で充実した生活を求めるシニアをバックアップする事ですが、その究極の目的は、社会提言にあります。

(次ページにつづく、みてね)

(前ページより)

特設電話相談は、全国のSLA協会で一斉に開設される、いわばSLA活動の目玉ですが、その場の活動に終始してはならないと思います。活動結果を分析し、必要であればそれに関する調査を実施し、あるいは行政やマスコミなどに問題点を提言して、初めて目的点に到達したといえます。

質の高いSLA活動を目指すため、会員の中から電話相談のプロジェクトチームを立ち上げ、幹事会と連携プレーをとりながら、活動の充実を図る。これも選択肢の一つになると思います。

☆。。。☆。。。☆

以上日頃のSLA活動で考えていたことをベースに、13年度の協会運営の方向性を述べました。今年度の役員は、幹事8名、監査2名。少人数ですが幸い、仕事の出来る協力的なメンバーに恵まれました。また4月22日に開かれた総会と、その後に行われた話し合いの会では出席者から多くの前向きな発言がありました。協会もまだ元気を失っていない事を確認しました。

今年は、ボランティア国際年として、世界各国のボランティア活動にスポットライトが当てられています。この背景の中で、将来、お互いに「SLAになって良かった」と言い合えるような方向に協会が向かえるよう、心して運営に当たりたいと思います。会員の皆様もしっかり後押しをお願いいたします。

新 幹 事 の 紹 介

13年度幹事会のメンバーを紹介します

今まで同様、ご理解とご支援をお願いいたします。

会 長	今 泉 治 子
研 修	梅 木 房 子
	奥 山 裕 子
渉 外 (地域電話相談)	畑 島 美 奈 子
	田 中 秀 典
広 報	加 藤 恭 子
	松 本 敏 子
会 計	近 田 昌 枝
監 査	稲 村 忠 雄
	桂 川 豊 明

会長のプロフィール

皆さん!会長は、どんな人かな?と思ってみえるでしょう。そこで、独断と偏見で紹介させていただきます。

一見、“とっつきにくい”印象ですが、一度とっついてみると、とてもやさしく、ロマンチックな可愛い人です。何事にも前向きにプラス思考で考えられる数少ない人です。困った事があれば、話してみてください。ほど良い返事があると思います・・・。

今年度の幹事会へのご連絡は 今 泉 治 子

〒464-0006 名古屋市千種区光ヶ丘2-9-33

TEL 052-721-2185

FAX 052-723-0574

E-mail: haru-1@mxy.mesh.ne.jp

チャンスとのめぐり合わせ

—インターネット博覧会 (IBM e-ビジネス) に参加して—

5期生 田中 芳雄

昨年、SLA の第6回創立記念行事が12月17日プリンセスガーデンホテルで開かれ、その折、財団の河合事務局長より、財団が高齢社会 NGO 連携協議会との関わりで、IBM が参加している、インターネット博覧会の中で「e-ビジネスはみんなのために！」をテーマにパビリオンを開催、参加者の募集をしている話を聞き、細かい内容も聞かずに、渡りに舟と早速応募した。

というのも、小生、インターネット取り組みも、先輩の2期生、加藤愛佐子さんの指導でつい最近(11年)始めたばかり、しかし、最近のITの進歩は目を見張るばかり、特にインターネットなくしての今後の生活は考えられないと感じ出したので、関心を持っていたのと、全国発信したい、テキスタイル・デザイナー向けプロ用プログラムの開発も目途が立ち、今後の展開を検討していた折なので飛びついた訳である。

IBM との取り組みが2月より始まり、スタート直後、3週間の入院を余儀なくされ、歩行できないため、ベッドで参考文献を読みあさり、おかげで判ったつもりで、退院したが、ところがどっこい、それから、ホームページ作りの悪戦苦闘の連続である。

なまじっか、Windows 98のプログラミングが出来るために、どこにでも見かけるホームページではなく、当初内容の盛り込みすぎが災いし、挫折の連続、方向転換の検討と、最終的に妥協案にたどり着くまでに時間がかかり、必然的に、計画のスケジュールより遅れ、他の参加者について行くのに必死な思いをした。しかし、考えてみると、このような機会に恵まれたおかげで、シニアの情報発信手段のひとつが、マスター出来たものと、大いに感謝している。

最近では、情報発信したい人が増え、それ相応の目的を持って(おおかたの人は自己満足の為に)ホームページへの挑戦をしているのを、見聞しますが、これからは、何事によらず、このような目的を持って、「挑戦する姿勢」が一番大事なこととおもいます。

つい日常的な事に流され、新しい事への取り組みを忘れてはいませんか？

今一度、自分がなにをしたいか、考えてみては、いかがですか……

インパク IBMコーナー

<http://www.inpaku.jp.ibm.com> の

e-ビジネス あきうどモール

田中 (ビジネス) ホームページURL

<http://akiudo.em-ewm.com/akiud/tanakay>



SLAのメンバーに求められるもの

3期生 亀井 省三

私がSLA養成講座を受講してから、すでに6年あまり経った。在職中の最後半部で、定年後、第二の仕事としてどんなことがよいか考慮中、新聞紙上に紹介された講座を見て「これがこれからの高齢社会に必要な生きる方法だ」と考えて受講したのが、SLAとのつながりの発端である。勿論、それまでの在職中に自分の趣味、興味にあった資格はいくつか取得していたが、まだまだやることがあると感じたのも受講の他の理由ではあるが…

ただし、SLA養成講座を振り返ってみると内容も多いし、レベルも高いが「自分が定年を迎えて第二の人生を歩むためには、あまりにも専門的すぎて実践のための力量を深める内容が不足している」と感じた。そこで私は受講後、実践面での研修を深めるために、人間関係学や行動心理学などの面でいくつかの、大学や研修会にすすんで参加し、実践力を付けてきた。以後、名古屋市生涯教育関係講座、地域のグループ講座（例 幼児教育、子ども会、老人会など）でお話や実践をさせていただき、多くの機会を得ている。

加えて、幸いにも、多くの友人、知人がいるし、前職とのつながりもあって、お声をかけていただいている。その折りは、スケジュールのかなう限りお手伝いをさせていただきつもりである。今、SLAに求められていることは、

①企画力 ②実践力 ③指導力 の三つの要（かなめ）が必要であると思っている。機会があれば「実践者グループ報告会」をもてればよいとも思っている。

※ お詫びと訂正 ※

平成13年4月1日発行の会員名簿に間違いがありましたのでお詫びして訂正します。

3ページ NO.316 亀井省三 鳴海町鏡田→鏡田

介護保険研究会会員募集

介護保険制度の基本を学び、高齢者の相談に応えられる人材を目指す人のための研究会が立ち上がりました。

SLAも、参加資格がありますので、高齢者にかかわるSLA活動を志しておられる方は、この機会に、研究会に加わっていただくことをお勧めします。詳細は、別添の「介護保険研究会会員募集」をご参照下さい。

この件に関する問い合わせ；052-721-2185 今泉治子

平成13年総会終了

4月22日（日）高砂殿本店

出席者24名 委任状63名 87/128名で成立

先に提出された議案書は、すべて承認されました。

総会終了後、今後の協会としての運営、活動についての話し合いがもたれました。

*会則にある役員の定年70歳の見直しについて

*対世間の認知度について

*地域部会について

おもに上記について活発な意見が出されました。

*70歳役員定年制について

年齢枠は取り外した方がいい

やはり、70歳は役員としての活動はしんどいといった意見がありましたが、改正となるといろいろ手続きもあり、幹事会でもう1度検討する。

*世間に対しては、身内だけの問題にせず、対外の方で処理をする。

*地域部会は、いま活動を一時休んでいる部会をどう活性化させるか。これも幹事会で検討して早い時期に報告する。

平成13年度の活動予定

4月22日	平成13年総会
5月	SLA通信24号発行
6月	会員集会
7月	名古屋北地域部会講演会
8月	研修会
9月(10月)	特設電話相談
10月2日	創立記念日
11月	パソコン教室
12月	SLA通信25号発行
1月	新年会 パソコン教室
2月	研修会
3月	特設電話相談 SLA通信26号発行
4月	総会
幹事会	毎月第2土曜日
地域部会	随時



お疲れさま 12年度幹事さん

大森政文さんから

幹事会と活動について

社会の中で何か活動をするとき、なぜするの、何のためにするのか、動機、ねらいがあり、そして何をこの手の中に得たいの、どんな結果が欲しいのかになると考えます。さらに得られた収穫が望んだものであったのか、収穫をいかに生かすことができるかと評価し、次の活動につなぎたいと考えます。しかし、幹事会の機能は、実践のグループではない。協会に実践のグループがあることが、私のひとつの提案です。

尾関恵子さんから

12年度幹事会活動について

12年度の幹事会は、今後どのように中部SLAを運営するかの模索の1年でした。今年は、それを実行の年だと思えます。12年度の行事は、幹事一丸となってそれなりの成果を上げたと思われます。私個人としては、どんな事も一生懸命、誠意を持って当たれば必ず開かれるという、いい経験をさせていただきました。本当に2年間ありがとうございました。

小澤節子さんから

やっとなんか、もうなんか、幹事の任期が終わりホッとしています。魅力ある企画、会員減少の歯止め、SLAの発展について検討した幹事会だったと思っています。新年度の幹事の皆様の健康を祈りつつ、2年間ありがとうございました。

永坂真弓さんから

我が家の家計簿さえ、碌にまともにつけた事のない、そして買い物してもすぐにその場で値段を忘れて困ったわたしが、この1年数字と格闘し、しっかり簿記の勉強をさせていただきました。とてもよい経験だったと今は思っています。

加藤愛佐子さんから

良かったこと

3年ぶりに名簿の作成ができたこと

名簿整理に当たっては、会費未納者や休会者、退会者が時々変わるので大変でした。

年度が変われば、皆さん会費を支払ってください。来期の休会、退会の通知は年度末までをお願いしたいと思いました。

わ 和 輪

バトンタッチをされた方は、次の号で、
SLAの仲間に渡して下さい。(原稿は400字程度)
気楽にリレーを楽しみましょう。

浅野澄子さんから加藤 清さんへ

・・・わ、和、輪・・・とても心地よい余韻・・・連想人間関係かな・・・

人はこの世に誕生し最初に出会うのが母、そして父、続いて多くの人々と関わりを持ちながら成長していきます。一生のうち誰でも思いがけないことに出会い、迷い、悩み、平静を保っているようで、心のどこかで喜怒哀楽に揺れ動いているかと思います。

私も今日までいろいろな人々と関わり、心のふれ合い、聴きあい、話し合い、そして助け合いの日々でした。残りの人生を如何に気楽に生きたらよいのかな・・・?と考へて読んだ書が「もっと心が楽になる生き方」日本心理療法研究所所長の篠木満著でした。作者は・・・つまらない思いこみ、嫌なこと、不快なことは早く忘れ、あるがままな自分を愛し、自然のリズムで心を楽しくにする。人との関係も気楽な心でいられるようにする・・・本当にうまく受け入れるにはかなり心の勇気がいりますね。(みなさん、いかがでしょうか?)

ところで最近の私は、教育・福祉関係のボランティア活動に微力ながら参加、支援させていただいています。忙しいけれど楽しさもあります。中部SLA協会設立時に入会し、多くの人々と出会い、心の財産をたくさんいただき感謝しています。これらは私の人生観の支えにもなっています。協会には、価値ある生き甲斐を見つけ、すてきな人生を歩みご活躍されている会員が、多数おられることと思います。その内の一人、協会設立時に苦楽を共にした方、加藤清さんをご紹介します。加藤さんは、しばらく休会されていましたが3年前「やっぱり懐かしいから」と復帰返り咲き第1号の方です。当時私たちは非常に嬉しかったのを記憶しています。現在は尺八の先生として後輩のご指導をされています。今後のご活躍を期待しています。

水野三佐子さんから金田勘治郎さんへ

岡副さんが倒れたと知ったとき、一番思ったのは、人生の計画を突然変更せざるを得なくなった彼の無念さ、なぜ自分にこんな事が起こるのだと受け入れられない気持ち、ひどいよね、くやしいね、そんな思いで手紙を書いたと記憶している。励ましたつもりはなく、私の励ましなど必要な人とは思っていない。ただ無念さを一緒に嘆きたかっただけ。返事はもちろん必要ない。一緒に学んだ仲間としての一方的な思いを書いただけで迷惑かもしれないも思った。つらい思いをして何とか今をやり過ごしている人に“ガンバレ”なんて言えない。でもね、このままではないだろう。きっと動き始める人だと信じていた。数ヶ月後に来たA4一枚のワープロ打ちの手紙、ちょっとゆがんだタックシールこの一枚に費やした彼の時間を思うと涙が出そうだった。うれしかった。やったね!その他にどんな気持ちがあったろう。

以後、今読んでいる本、やろうとしている事、考へていること、くちやくちやの自分のことを手紙に書き気持ちを、整理していたように思う。励まされていたのは私だった。私の方こそ彼にありがとうを伝えたい。“岡副さん、ありがとう!”人間の値打ちって、人の為になんかしてあげれるっていうことではないんですね。存在そのものが他者を勇気づける事もあるのです。

バトンはこのあと、あるボランティアで偶然出会った金田さんにつなぎます。毎回会うたびにSLAに戻れと言われます。ごめんね、もう1年休ませてください。退会する気はないのですから・・・。

わ 和

中

奥山裕子さんから大森政文さんへ

高田さんよりバトンタッチされました奥山と申します。
五期生として講義を、まじめに？受けていたときは、後ろの方で誰と話すこともなく存在感のない私でしたのに、今期は幹事と言うことで戸惑っております。いろいろ苦勞話し、聞いておりますが国でいえば、発展途上国かもしれないSLAと思いますが、会員一人ひとりの知恵と行動があれば認知され、そしてまた楽しい仲間づくりが出来るのではないのでしょうか。

何事にも参加することに意義があると思います。会員相互の自由な発想と意見交換により、一人では出来ないことも仲間がいれば、実現することもあります。活用して充実した、SLAになればとおもいます。

次回は、前期会長の大森さんをお願いします。いろいろとご苦勞様でございました。

お知らせ と お願い

◎ 平成13年度会費納入のお願い

* 振込先 東海銀行 笹島支店 * 振込先名 中部シニアライフアドバイザー協会
* 口座番号 普通 1411404 * 年会費 3,000円
振替用紙は同封しません。(自動振込機の方が手数料が割安です)

振込手数料

東海銀行笹島支店	自動機	0円
東海銀行他支店	自動機	105円
他の銀行	自動機	210円

◎ 中部SLA協会の会員はボランティア活動保険に加入しています。

掛け金300円/一人は、名古屋市の補助金を受けています。(2001/4より1年)

編集後記

会員参加型を全面に出し、また文字を大きくし読みやすくしてみました、いかがでしょうか？

皆様の様子をもっと、もっと知りたいそんな思いです。思い切って投稿してみませんか？スタッフ一同、お待ちしております。(M)